

## 平成30年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況	
協議会	名瀬地区	宮古崎	0	60%	波当たりが強く、ハナヤサイゴ属が優先。食痕や白化はなく、健全なサンゴ群体。被度は昨年度と変わらず60%。
		宮古崎東	0	30%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態だが、礁縁部に直径30～40cmの群体が散見。白化群体やオニヒトデ食痕なし。被度は昨年度20%から30%に増加。
		デン浜	0	70%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態。浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。白化群体やオニヒトデ食痕なし。被度は昨年度60%から70%に。
		知名瀬大浜	0	60%	礁斜面のサンゴは壊滅状態だが、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		大浜	0	20%	ミドリイシ属の小型群体が生存、直径20～30cmほどの群体が多い。今年度は白化、食痕なし。昨年の白化により2割程度、死滅。
		摺子崎	0	25%	礁斜面のサンゴはほぼ全滅。礁縁にハナヤサイゴ属が優先し、ミドリイシ属の小型群体も多い。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		赤崎	0	40%	直径20～30cmの卓状および指状ミドリイシが散見。白化群体やオニヒトデ食痕なし。被度は昨年度10%から40%に。
		名瀬湾立神	0	30%	2010年から小型群体がまばらに。直径20～30cm程度の指状ミドリイシ属群体が多い。白化群体やオニヒトデ食痕なし。被度は昨年度25%から30%に。
		山羊島	0	30%	大型の塊状ハマサンゴ群体が点在、枝状のユビエダハマサンゴ群落広がるが、破損部分も多い。透視度は10m程度、シルトが堆積。白化群体なし。
		キョンナ	0	40%	サンゴは急速に回復がみられ、直径20cm～40cmの卓状および指状ミドリイシ属群体が散見。白化群体やオニヒトデ食痕はなし。
		有良	0	15%	ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばら。直径10～20cm程度の指状ミドリイシが多い。新規加入は少ない。
		芦花部	0	10%	直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴが少数程度で、新規加入は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
		摺子崎礁池	0	5%未満	塊状のハナガササンゴの小群落や、塊状ハマサンゴが点在。ショウガサンゴの小型群体が散見。ミドリイシ属の新規加入はほぼなし。
		摺子崎礁原	0	20%	卓状ミドリイシ属が優先。直径50～70cmに成長した卓状ミドリイシも散見、最近死滅した群体もあった。オニヒトデの食痕なし。
		大浜礁池	0	5%未満	昨年度、調査地点を変更。被度は80%だが夏期高温により90%が白化し、11月に8割が死滅。被度は昨年度80%から5%未満に大幅減少。
		大浜礁原	0	30%	オニヒトデ、駆除等により全滅は免れ、卓状および指状ミドリイシ属が優先。死滅群体は少数。被度は昨年同様30%。
		住用地区	住用地区	崎原東	0
崎原南	0			30%	サンゴ食巻貝の食痕あり。被食率5%未満。被度は現象したが回復傾向。樹枝状のミドリイシ属と塊状ハマサンゴが優先。種の多様性高。
仲干瀬崎(小湊南)	0			80%	礁縁にはハナヤサイサンゴ群集、礁斜面上部ではウスエダミドリイシやスゲミドリイシ等のコリンボース状のミドリイシ属小型群体も増加。順調に回復。
高浜東	0			75%	礁縁上部に卓状ミドリイシ属の大型群体。直径2m以上のクシハダミドリイシや直径1m以上のココビミドリイシの大型群体。透視度10m以下。
高浜	0			55%	白化なし。直径40～60cmの指状、卓状ミドリイシ群体。透視度15m。概ね健全な状態。被度は昨年度50%から55%に増加。
鳩ノ崎	0			10%	白化なし。ハマサンゴ、キクメイシ類の小型群体が点在、海底に大型ハマサンゴ群体が点在。新規加入は少ない。
トビラ	0			10%	2017年高海水温による白化群体が散見。トビラ島側のサンゴ群集周辺に海底には泥土の堆積なし、表面にうっすらとシルト堆積。被度5%未満から10%に。
笠利地区	笠利地区	スタルトビラ	0	25%	湾奥小滝からスタルトビラに続く小規模なサンゴ礁。礁縁にココビミドリイシやクシハダミドリイシ等の卓状ミドリイシの群体。白化群体はなし、健全な状態。
		和瀬	0	20%	2016年から白化群体増加、大型塊状ハマサンゴも部分死滅。2017年7月からハナヤサイサンゴ類や樹枝状ミドリイシ群落が白化。今年度は白化なし。
		赤木名	0	20%	9割以上がハマサンゴ。その他キクメイシ属やハナガササンゴ属の群体が点在。ウスエダミドリイシ小型群体は少数。
		前肥田	0	20%	ユビエダハマサンゴ群落が2016年の白化により死滅。被度は昨年同様20%。
		赤木名立神	0	30%	昨年ハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化、ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多かったが、死滅はごく少数。
		蒲生崎入口	0	10%	オオウミノコやバラウネタケ等、ウミサカ科のソフトコーラル類が優先。直径10～20cmのミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体も散見。被度は昨年度15%から10%に減少。
		蒲生崎	0	35%	昨年の白化による死滅なし。直径20～30cmの指状ミドリイシ属の小型群体が散見。オヤココビミドリイシやココビミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。被度は昨年30%から35%へ。
		佐仁	0	75%	直径50～60cmの指状ミドリイシ属群体や被覆状のニオウミドリイシも多い。樹枝状のアオサンゴ小群落が点在。被度は70%から75%に増加。
		用海岸	0	65%	卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多い。クハダミドリイシ、ウスエダミドリイシ、アオサンゴ小群落が点在。白化群体やオニヒトデ食痕はなし。
		あやまる岬	0	50%	直径約50cmのクシハダミドリイシやココビミドリイシが多い。太枝状のヤスリミドリイシも。白化群体やオニヒトデ食痕なし。被度は40%から50%に増加。
		節田	0	30%	クシハダミドリイシ、ココビミドリイシ他、卓状ミドリイシ群落や直径5mほどの大型群体あり。新規加入多い。昨年の白化で樹枝状ミドリイシ群体に部分死滅、被度は60%から30%へ。
		明神崎	0	65%	ハナヤサイサンゴ科の群落。スゲミドリイシ、ココビミドリイシの小型群体も散見。水路部に直径約1mの卓状ミドリイシ類も。白化群体、オニヒトデ食痕なし。被度は60%から65%に。
		用安	0	20%	直径20cmほどの指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径約1mのクシハダミドリイシも。新規加入はやや少ない。白化群体やオニヒトデ食痕なし。
神の子	0	80%	枝状のトゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミウスコモンサンゴ群落。昨年は群落の80%が軽度の白化だったが、死滅なし。被度70%から80%へ。		

平成30年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
大和村	今里沖	0	5%	ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体(直径10~20cm)がまばら。顕著な回復はない。被度は昨年度5%未満から5%に微増。
	今里小浜	0	20%	被度は昨年度5%から20%に。卓状ミドリイシ小型群体も少数確認、新規加入数は少ない。ハナヤサイサンゴやコビミドリイシの小型群体が増加傾向。
	名音沖	0	60%	直径20~40cm程度のミドリイシ属の小型群体が散見できる。国直海域、毛障海域と併せてオニヒトデ駆除海域(保全海域)に選定すべき。
	名音隧道	0	25%	死滅サンゴ骨格上に直径10~15cm程度のミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。新規加入は名音海域より少ない。
	ヒエン浜中央	0	10%	ミドリイシ属の直径1m程度の大型群体が少数、新規加入は少ない。被度は昨年同様。白化群体やオニヒトデ食痕はみられなかった。
	ヒエン浜戸側	0	20%	ミドリイシ属の大型群体が少数。ミドリイシ属の小型群体も散見できるが、加入数は少ない。白化群体やオニヒトデ食痕はなし。
	ヒエン浜礁地	0		(高波のためリーフ内に侵入できず未調査)
	大山崎西浜	0	10%	直径10~20cm程度の指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴ、卓状ミドリイシの小型群体やキクメイシ科の小型群体。新規加入は少ない。
	トルス	0	5%	白化率50%。指状ミドリイシ属の小型群体が1平方メートルあたり1~2群体程度。新規加入数は少ない。
	マッコ	0	20%	直径10~20cm程度の指状ミドリイシ属の小型群体が散見。付着藻類が多いが、サンゴ群体は概ね健全な状態。
	石川	0	15%	ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入は少ない。被度は昨年度10%から15%に増加。
	親川	0	30%	サンゴ群体の成長により被度は25%から30%に増加。リュウキュウノウサンゴ群落が広がる。
	宮古崎	0	60%	卓状ミドリイシの成長により、被度には昨年度50%から60%に増加。直径20~50cm程度の指状、卓状のミドリイシ属群体が多い。
	志戸勤コモリ	0	20%	礁原上にある直径約50m、水深約10mのすりばち状の窪み(コモリ)。フトエダミドリイシやMontipora mactanensisなど、周辺にあまりない種も。
	志戸勤礁池	0	10%	樹枝状ミドリイシの小型群体も多く、数メートルに広がる群落も点在。直径30cm程度のウスエダミドリイシ等も。
	国直北	0	80%	国直集落北側の砂浜前面。被度はH26年度50%、H27年度70%、H29年度80%と増加。今年度も昨年度同様80%。
	国直	0	80%	国直集落前面に広がるサンゴ礁。被度はH26年度50%、H27年度60%、H28年度70%、h29年度今80%と増加。
	毛障礁池	0	50%	調査地点を礁縁から礁池へ変更。礁池内は直径30~50cmの卓状ミドリイシ類が優占。被度は昨年度40%から50%に増加。
	親川南	0	55%	2010年の奄美豪雨災害の大規模な崩落で白化、死滅。以降、回復が進んでいる。被度は昨年度50%から55%へ。
宇検村	曾津高崎東	0	80%	ナヨクミドリイシやハナヤサイサンゴなどの大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっている。新規加入も多い。サンゴの白化の発生はなし。
	外浜	0	75%	礁縁では被度が高くなり、卓状ミドリイシ大型群体もみられる。10~20cm程度の小型ミドリイシ群体も散見。白化やオニヒトデ食痕はなし。
	屋鈍崎	0	50%	コビミドリイシやオヤビミドリイシ等の群体やナヨクミドリイシやハナヤサイサンゴなどの卓状群体が散見。被度は昨年度40%から50%に増加。
	屋鈍	0	30%	直径20~40cm程度の指状および卓状ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシ群体が散見。被度は昨年度20%から30%に増加。
	タエン崎	0	75%	直径10~30cmのコリンボース状および直径1mほどの大型卓状ミドリイシ属のサンゴ群体が散見。浅所では、樹枝状ミドリイシ。被度は70%から75%に増加。
	タエン	0	60%	昨年度ハナヤサイサンゴ類やコモサンゴ類、アザミサンゴ類、卓状および樹枝状ミドリイシ属群体が白化した。死滅群体は少数。被度は昨年度同様60%。
	枝手久島北	0	80%	ナヨクミドリイシ等の卓状ミドリイシ属が優占。1m以上の大型群体も多く、コビミドリイシ、オヤコビミドリイシも多い。新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。
	倉木崎	0	40%	コリンボース状ミドリイシ小型群体が散見できる。コビミドリイシやオヤビミドリイシが多い。白化やオニヒトデ食痕はなし。新規加入は少ない。
	船越海岸	0	80%	ナヨクミドリイシ等の大型卓状ミドリイシ属が優占する。新規加入のサンゴも多い。オニヒトデ食痕や白化なし。良好な環境が保たれている。
龍郷町	ウマズバマ	0	25%	食害等は見られない。ソフトコーラルが目立つ。被度は昨年同様25%。
	ハナゴイ	0	40%	食害なし。パラオハマサンゴ、コビエダハマサンゴは相変わらず健在。ミドリイシは目立たず。被度は昨年同様40%。
	円	0	10%	小型群体が成長してきている。全体的にソフトコーラルが優占する。被度は昨年度同様10%。
	嘉渡	0	10%	ミドリイシ属群体は少ない。ソフトコーラルが優占する。被度は昨年同様10%。
	久場	0	25%	水深3mのコビエダハマサンゴは死滅。水深5mからコビエダハマサンゴが目立つ。水深10m以上はエダセンベイサンゴ。少し泥を被るが影響なし。
	今井崎	0	30%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに元気。食害なし。被度は昨年同様30%。
	赤尾木	0	30%	砂地に点在するハマサンゴは昨年度と同じく健全。ミドリイシも昨年と変化なし。被度は昨年同様40%。
	倉崎	1	25%	昨年夏の高水温でミドリイシが減少したが、現状を維持している。被度は昨年同様25%。
	白浦	0	15%	昨年と変化なし。コブハマサンゴは健在。被度は昨年同様に15%。

協議会

## 平成30年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
	戸ロアーチ	0	25%	食害なし。ミドリイシは少ない。ハマサンゴ、ソフトコーラルが目立つ。被度は昨年同様25%。
	戸ロアウン	0	25%	ハマサンゴ、ソフトコーラルが変わりなくみられる。食害なし。被度は昨年同様25%。
	戸ロ落水	0	25%	食害等なし。ミドリイシは少ない。被度は昨年同様25%。

## 平成30年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
瀬戸内町	安脚場	-	50%	前年度より、若干ではあるが被度が上昇した。
	黒崎	-	25%	前年度より、若干ではあるが被度が上昇した。
	実久	-	70%	浅瀬はサンゴの密度が高いが、水深が深い箇所は若干ではあるがまばらになっている。
	デリキョンマ岬	-	35%	被度の変化はなかったが、若干ではあるが白化現象が見られた。
喜界町	花良治	0	5%以上～25%未満	オニヒトデ食痕は見られない。
	塩道	0	5%以上～25%未満	オニヒトデ食痕は見られない。
	池治	0	25%以上～50%未満	オニヒトデ食痕なし。被度は花良治、塩道に比べ少ないが、塊状の特にハマサンゴ類、ソフトコーラルは多い。
徳之島町	畦	10	70%	枝サンゴは回復、シコロ系成育良好。水温低下によるサンゴの白化がみられた。
	母間	24	70%	被害が少なく成育良好。水温の上昇による白化はなし。オニヒトデの行動が鈍く、食痕小さめ。
天城町	松原漁港沖	0	15%～25%	全体的に再生に向かっているのが確認された。新しいサンゴ礁の被害も見られなかった。
	浅間沖	0	15%～25%	昨年度比でサンゴ礁の状態が悪くなっている。再生の良い所と悪い所があった。
伊仙町	喜念	7	50%～74%	シコロ系、生育良好。枝サンゴ育成良好。
	喜念(コバンシャ)	6	50%～74%	シコロ系、枝サンゴの生育良好。
	面縄	5	50%～74%	浜サンゴ生育良好、枝サンゴの枯れが目立った。
和泊町	西原	0	20%	大きな変化なし。
	出花	0	20%	前回と大きな変化はなし。
	ワンジョ	0	20%	9月の台風でモニタリングのサンゴが消失。
	イダンチ	0	20%	9月の台風でモニタリングのサンゴが消失。
知名町	沖泊(北西)	0	5%以上25%未満	一部レイシガイの被害が見られたが、白化現象は昨年に比べほぼない。
	屋子母	0	5%以上25%未満	漁礁が設置されていてその先端に着床成長しているサンゴが増加傾向にある。
	ウジジ浜沖	0	25%以上50%未満	台風の影響によるものと思われるサンゴの欠損や折れが目立っていた。
与論町	長崎沖	0	40%	やや良好
	赤崎沖	0	40%	やや良好
	赤崎沖(礁池内)	0	5%未満	かなり不良
	皆田沖(礁池内)	0	10%	不良
	茶花沖(ニュードロップ)	0	30%	やや良好
	茶花沖(宮殿東)	0	40%	良好